

11×19 掛算帳の使い方

①11 から 19 までの数同士の掛算、例えば、
17×14 では

21

+

28

7 × 4

17 + 4

238

17+4 と 7×4 をずらして足す、これは
17+4 を 10 倍して足す事を意味します。
その原理を理解しましょう。

7=a、4=b とすると

(10+a)×(10+b)

1≤a≤9

=10(10+a)+b(10+a)

1≤b≤9

=10(10+a)+10b+ab

=10((10+a)+b)+ab

→ 10×(17+4)+(7×4)

この条件を満たすときのみ使えます。
例えば 17×24 には使えません。

- 1 -

②日常生活の中で掛算が必要になるとき、
掛けられる数と掛ける数が同時に増減する
ケースは稀です。どちらか一方は固定的で
もう一方は大きく変化し、結構すぐに 19
を超えてしまいます。掛ける数だけでも
増やせたら便利です。
17×24 に使えるようにするには、

(10+a)×(20+b)

1≤a≤9

=10(10+a)×(10+10+b)

1≤b≤9

=10(10+a)+10(10+a)+b(10+a)

=10(10+a)+10(10+a)+10b+ab

=10(10+a) + 10((10+a)+b)+ab

ここに使える！！

↓

10×17

17×24 では

21

+

28

7 × 4

17 + 4

238

掛け数 29 までは
これでいける！！

238

+

17

408

- 2 -

③掛ける数が 29 超え、例えば 17×34 では、

2(10(10+a)) + 10((10+a)+b)+ab

普通の筆算

21

+

28

7 × 4

17 + 4

238

34

×

2

(3-1)

17

34

68

51

578

一桁掛算が 1 回増えます。こうなると、
普通に筆算するのと変わりませんね。
しかし、本帳では一桁掛算の訓練も兼ねて
以下の書式で練習します。

21

+

28

7 × 4

17 + 4

238

17×34= 28→238=578

④右ページに左ページの解答が、左ページに
右ページの解答があります。

- 3 -

補数——足すと 10 になる数
正の数——0 より大きい数
負の数——0 より小さい数
符号——0 より大きい小さいかを示す記号
正の数の符号は省略して表示しない
絶対値——0 との差（符号を取り除いた数）
繰上げ——1 増やす
繰下げ——1 減らす

COPYRIGHT STUDIOkame

代表 伊地知活彦

MAIL ijichi@k.email.ne.jp

URL https://www.studiokame.jp/arith/

- 80 -

11×19 掛算 得点 / 80

次の答え 各 10 点

182 17×19=

228 15×12=

210 12×13=

168 16×11=

180 13×13=

285 14×12=

210 12×15=

154 12×13=

- 4 -

11×19 掛算 得点 / 80

前の答え 各 10 点

323 14×13=

180 19×12=

156 15×14=

176 12×14=

169 12×15=

168 19×15=

180 14×15=

156 11×14=

- 5 -

11×19 掛算 得点 / 80

次の答え 各 10 点

960 11×29=

506 16×33=

605 17×73=

1260 11×92=

192 11×73=

559 13×22=

795 18×55=

504 19×79=

- 78 -

11×19 掛算 得点 / 80

前の答え 各 10 点

319 15×64=

528 11×46=

1241 11×55=

1012 18×70=

803 12×16=

286 13×43=

990 15×53=

1501 12×42=

- 79 -